

New
Topics

最近の出来事

みさけ夏まつり2023に 参加しました！



7月29日(土)に行われました「みさけ夏まつり2023」に、おおぞら病院として「くじ引き」のお店を出店しました！お祭り自体が数年ぶりということもあって非常に多くの方が来られ、盛大なお祭りとなりました。
来年もぜひ、参加できればと思います！

おひさま畑の 収穫祭を楽しみました！



5階のおひさま畑では、毎年患者さんに教えていただきながら夏野菜を栽培しており、今年も立派なきゅうりなどが収穫できました。暑い中での収穫祭でしたが、みんな笑顔で楽しい時間を過ごせました。

第66回日本糖尿病学会 年次学術集会で発表してきました



数年ぶりに現地での学会発表に参加してきました。鹿児島の会場で直接質疑、討論ができて非常に学ぶことができました。今後の業務の中で活かしていきたいと思います。

リハビリテーション部
日本糖尿病療養指導士・代謝認定理学療法士
河野 桃子、小室 博

第8回 写真コンテスト開催！

今回は「夏」をテーマに募集しました。

最優秀

近藤 さやか
(管理栄養士)

作品タイトル「過日の彩り」

ジリジリと照りつける太陽の下、生き生きと咲いている向日葵に元気をもらってきました。



優秀

小池 拓郎
(理学療法士)

作品タイトル「夏の味覚」



佳作

宮内 玲奈
(看護師)

作品タイトル「夏」



SORABITOを知る！

Vol.

Relay Interview 01
リレーインタビュー

健診サポートセンター

熊谷 洋子

コンプレックスを克服！
お気に入りのまつ毛美容液♪



私にはたくさんのコンプレックスがあります。その中のひとつがまつ毛。短い・薄い・少ない。ビューラーで上げて、マスカラを塗っても瞼の重さですぐに下がり、そもそもビューラーでつかむのもやっと。まつエクもしたいけれども、アレルギーで出来ず。そんな私が今では、一生縁はないと思っていたまつ毛パーマをかけるように。1年半くらい前からまつ毛美容液で、まつ育。ずいぶん前にも使用した事があったが全く効果なし。今回も半信半疑で使用開始。しかし、思いもよらず効果抜群。まつ毛を上げるとコンプレックスの一つである一重も気にならなく。何事も挑戦せず諦めてはいけません。大げさだけど、この美容液は一生使用します。

NEXT! 次号 Vol.02は… 地域連携室のsorabitoへ! >>>

基本方針

患者さん中心の医療 「笑顔であいさつ」を心掛け、患者さん中心の心の通った医療を行います
質の高いチーム医療 「専門職としての知識・技術の向上」に努め、質の高いチーム医療を実践します
地域に貢献できる医療 「ともに生きる」の精神で、地域の皆さまと安心して暮らせるまちづくりに取り組みます

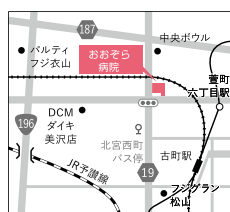
医療法人同仁会
おおぞら病院
OOZORA HOSPITAL



〒791-8555 愛媛県松山市六軒家町4-20 FAX 089-989-6619

TEL 089-989-6620 (代表) 平日 9:00～17:00 (休診日を除く)

JR	JR松山駅より タクシー約3分 または伊予鉄市内電車に乗換
伊予鉄電車	伊予鉄市内電車・城北線 萱町六丁目駅 下車 徒歩約5分 伊予鉄郊外電車・高浜線 古町駅 下車 徒歩約10分
バス	勝岡・運転免許センター線 北宮西町バス停 徒歩約3分



おおぞら病院 広報誌「そら」

SORA

そら

Vol. 33

2023.09

TAKE FREE

「特集」そらのお仕事

“看護師” 海を渡って、ベトナムから おおぞら病院へ

リレーインタビュー 熊谷 洋子
コンプレックスを克服！

最近の出来事
イベント&学術集会で
充実した、おおぞら病院の夏

「大好評」
写真コンテスト結果発表！

MESSAGE

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが今年5月より2類から5類へと移行したことにより、社会の動きにも大きな変化がみられています。おおぞら病院においても、コロナ禍を経験したからこそ得られた知見や技術をもとに感染症への対応をしています。患者さんの安全を担保しつつ、患者さん本人やご家族との対話ができる環境となり、コロナ禍では難しかった踏み込んだ情報収集やニーズの把握が行え、それらをケアに活かせることに喜びを感じています。職員も、今までのような閉塞感なく日常を

過ごしています。院外での研修も、Webやオンデマンドの活用だけでなく直接参加することで現場の空気感や熱意に触れ、より学習意欲を高めることができています。地域との繋がりにおいても、以前のような活気が戻っています。当院の理念でもある、親しまれ、信頼され、満足される病院になるよう一層努力してまいります。今後も、様々な状況や変化に合わせて柔軟に対応できる看護部を目指しますので、どうぞよろしく願いいたします。

看護部長 友澤 永子 (認定看護管理者)

大変だけど、きっと武器になる！
働きながら
資格を取った
職員さんに
インタビュー！





新しい仲間の紹介です

日本の文化を学び、介護技術を学ぶ介護職技能実習生がベトナムからおおぞら病院に来てくれました。ベトナムでは看護師の資格を取得されています。3月17日から3階病棟でケアワーカーとして働き始めているズエンさんとリンさんにインタビューしてみましょう。



- 01 皆さんと一緒に桜を観に行ったこと、松山城に観光に行ったこと



- 02 お寿司、うどん
- 03 日本語の勉強、スーパーで買い物、家の周りを散歩
- 04 新しい職場環境にすぐ慣れること、学ぶ姿勢、真面目に仕事に取り組むこと
- 05 介護の仕事がきちんとできるようになること、日本語試験N2に合格すること

質問

Question

01. 日本で楽しかったことは何ですか？
02. おいしかった日本の食べ物は何ですか？
03. 休みの日の過ごし方を教えてください！
04. あなたの長所は何ですか？
05. これからの目標は何ですか？



- 01 一番の楽しみは「おおぞら病院」で働いていること。皆さんが優しい。誕生日にはとってもおいしいケーキを頂いたこと

- 02 日本食は私の好みにとっても合っています。お寿司とたこ焼きは、今まで食べた中で最高の料理です

- 03 日本語の勉強、掃除や買い物、公園に行く



- 04 仕事に対する努力と真面目さ
- 05 与えられたタスクをしっかりと完了すること、日本語試験N2に合格すること

指導者のケアワーカーさんより一言

とても真面目で頑張り屋さん

前向きに学ぼうとする姿勢も吸収力も素晴らしい

手先が器用で細かい作業が上手

覚えが早い

かわいいので患者さんにも人気があります



仕事の流れ ケアワーカーの1日



ケアワーカーは、日常生活動作において介助、支援を必要とする患者さんの身体介護（衣服の着脱、入浴・清拭などの清潔行為、食事、排泄など）の介助や生活援助を行う介護の専門職です。

☀ 早出業務	🌙 遅出業務
7:15 業務開始	10:30 業務開始、入浴介助（普通浴）
7:40 朝食配膳	11:40 昼食配膳
9:00 入浴介助（機械浴）	13:00 休憩
12:00 休憩	14:00 業務開始
13:00 業務開始	17:40 夕食配膳
15:45 業務終了	19:00 業務終了

特集

Working in Oozora

そらのお仕事*

介護士

（介護福祉士、ケアワーカー）

ココが嬉しい！

働きながらの資格取得をサポート！

— 実際に仕事をしながら介護福祉士の資格を取得した職員さんの声 —

01 資格を取ろうと思った理由は何ですか？

- Tさん** 仕事をしていく中で資格や知識があればいいなと感じるようになったからです。
- Wさん** 無資格で病院での仕事を始めたので、今後仕事をしていくために基本的な知識が必要だと感じ、資格を取ることに決めました。
- Oさん** 自分の強みが欲しいと思ったのと、資格を自分の武器にしたいと思ったからです。



02 仕事をしながら資格を取りに行くことで、大変だったことは何ですか？

週に1回講義があるため時間の配分が難しかったです。（3人ともに）

03 資格を取得して良かったことはありますか？

- Tさん** 資格を取った事で知識が増え、それを仕事に活かせるので自信が持てるようになりました。また、講義で一緒だった人と話すことで気分転換になり、良い出会いにもなりました。皆さんとは今でも交流があります。大変でしたが楽しかったです。
- Wさん** 実体験で取得した知識に加えて、より深い知識を学ぶことができるので、それを仕事の中で活かしていけることです。
- Oさん** 仕事に対して自信が持て、お給料も上がったことです。



資格取得報酬制度や資格活用手当があります

職員が業務に関連する資格を積極的に取得することを奨励し、自己啓発とモチベーションを図るとともに、患者さんへの良質な医療の提供を行うことを目的としています。

— 仕事と私生活の両立も可能 —

04 どのように私生活と両立していますか？

- Wさん** 職場や家族の理解と協力で両立ができています。仕事をしながら、中学生のころから続けてきた新体操の楽しさを伝えるために子供たちに教えています。ケアワーカーの仕事と新体操の先生で小さい子供からご年配の方まで様々な年齢の方と関わることができて楽しいです。



趣味や特技を仕事に活かすことができます！

工作が上手なYさんは、3階病棟にあるボードに自作の四季折々のイラストや立体アートを飾り、患者さんや職員に笑顔と感動を届けてくれています。アートの一部を患者さんの手の運動やコミュニケーションを目的として、患者さんとスタッフで一緒に作ったりもしています。

当院でアートを始めたきっかけ

- Yさん** もともと絵を描いたり工作することが好きで、レクリエーションの一環として患者さんと一緒に絵の制作をしていました。みんなが絵を見て笑ってもらったりすると嬉しいです。コロナの影響によって患者さんが集合しての制作ができなくなり、今は一人で作って掲示していますが、またみんなでワイワイ制作できるようになればいいなと思っています。

